

資料に親しむ会 令和6年度第3回

「描かれた嵐山」

京都府立京都学・歴彩館職員が「描かれた嵐山」を、下記のとおり開催しました。

記

- 日 時 令和6年6月11日（火）午後2時30分～3時30分
- 場 所 京都府立京都学・歴彩館1階 小ホール
- 参加者数 83名
- 内 容 江戸時代から明治大正期を中心として、木版画を中心に嵐山を描いた作品を紹介した。
『山城名所記』などの名所記や歌川広重らによる浮世絵、川瀬巴水らによる新版画を通じて、俯瞰構図や渡月橋と松や桜を描く王道の構図を解説した。

■ 参加いただいた方々のご意見（参加者アンケートより）

- ・嵐山を絵画から探る、良い試みでした。
- ・図版の例が豊富で新たな発見がありました。
- ・構図は定番でもいろいろな表現があって、おもしろかったです。
- ・多角的な視点（歴史・産業・文化）から嵐山を知ることができて大変良かったです。
- ・今まで知らなかった嵐山を知れて感動しました。お話をうかがってまた訪れて現地でいろいろ考えて見たいと思います。
- ・楽しそうに話され、こちらも楽しく聴けました。嵐山がもっと好きになりそうです。

（講座の様子）

